



座ったままできる阿波踊り体操で体を動かす参加者—吉野川市鴨島町敷地の徳島病院

楽しみながら
リハビリ実践
徳島病院
難病患者ら対象教室

センターを退院した患者らを対象にリハビリ教室を始めた。教室は2カ月に1回で、交流を促すことで家庭でのリハビリ意欲を高めてもらうのが狙い。

家族を含む22人が集まり、家庭でのリハビリや

悩みについて意見交換。センター長の三ツ井貴夫医師が「ストレスが病気を進行させる。楽しみながら取り組んで」と激励した後、理学療法士から座ったままできる阿波踊り体操を習った。

4月に開設されたリハビリセンターでは、4週間入院して独自のメニューに取り組む。病気の進行を抑えるには退院後も続けることが欠かせないため、励まし合う場にしてもらおうと教室を始めた。

パーキンソン病は、脳内で神経伝達物質のドーパミンが不足し、手足の震えや動作が緩慢になる症状が徐々に進行する難病。